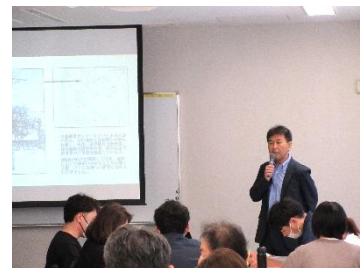


令和7年度彩の国あんしんセーフティネット事業

就労支援担当者研修

実施日	令和7年6月18日(水)10:30~16:10
参加者	47名 (実施施設担当者・市町村社協担当者・ 自立相談支援機関の担当者)
講師	○さいたま市こころの健康センター 清水氏、上遠野氏 ○日進職業センター 谷口氏 ○埼玉県福祉人材センター 片桐氏
実践報告	特別養護老人ホームさくら苑 桶川市社会福祉協議会



谷口氏の講義

内容
こころの健康センターでの連携事例について紹介したほか、実践報告では、順調に体験し施設に就職が決定した事例について本人にもお越しいただき、体験した感想をお話しいただきました。 また、障害者就労支援から学ぶ対象者との関わり方についての講義と、福祉人材センターとの連携についても説明がありました。 事例検討は、施設で対応に苦慮したケースについて考えられる支援や対応について意見交換を行いました。 【谷口氏のお話】 ～関わりのポイント～ ・対象者をよく知り、自己理解を促す。 ・職業場面において力を発揮することを目指す。 ・診断名や障害分類ごとの特性に目を向けすぎない。 ・職業場面で起きている課題の背景を認知特性と関連付けて整理してみる。 ・手順や用語を決め混乱させない。 ・対象者の理解度を意識して、できるように教える。 ・自己評価(認識)と他者評価(認識)の違いをすり合わせる。 ・ご本人のプラスになる提案、助言をし、対応策を一緒に考える。
参加者の声
・体験後、就労という流れだと思っていたので、「体験」が就労の一步で他職種へ行くこともあるとお聞きし、「何かやってみたい」方へ勧めていけると思った。

- ・支援が具体的で参考になった。アセスメントの意味、知る、理解する、助言する、定着支援へ、等、根気よく寄り添いたいと感じた。
- ・ご本人の感想も聞け、前向きな様子が窺えたことと、担当者等関わった方々の本人様への想いが伝わってきた。
- ・体験の良さに改めて気づかされた。体験就労は就労の大きな一歩だと思う。